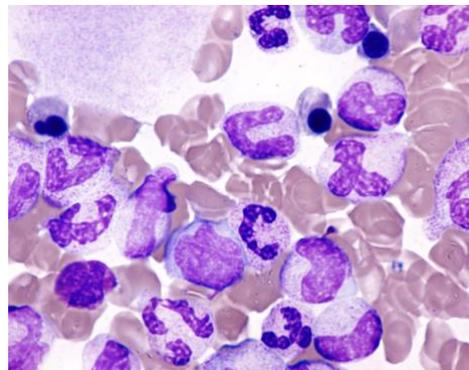


血液内科・リウマチ膠原病内科

血液内科

血液内科学分野では貧血、白血病、悪性リンパ腫など血液疾患の診療、研究を行っています。全身をめぐる血液には白血球、赤血球、血小板といった細胞が含まれており、それぞれ重要な役割を担っています。血液疾患ではこれらの血液細胞が異常をきたします。オープンキャンパスでは、血液に関するクイズ、顕微鏡を用いて正常骨髄や白血病の骨髄像を供覧します。また、新規薬剤、骨髄移植（造血幹細胞の移植）、免疫細胞を用いた治療、現在取り組んでいる研究内容についても紹介します。



リウマチ膠原病内科

リウマチ膠原病内科は、全身性自己免疫疾患を対象とした診療と研究を行っています。環境中には沢山の微生物が存在し、一部は病気を引き起こします。病原体から生体を防御しているのが免疫ですが、その機能が過剰になると、かえって生体を傷害する免疫反応を起こし、自己免疫疾患を発症します。自己免疫疾患は、甲状腺機能亢進症など臓器に限られるものと、関節リウマチや全身性エリテマトーデスをはじめとする全身性自己免疫疾患があり、全身に様々な症状が出現します。最近ではグルココルチコイドだけでなく、新しい治療法が続々と出現し、その進歩を含めて紹介します。当研究室では、これまでに全身性エリテマトーデスのB細胞で特異的に発現している遺伝子の発見、高安動脈炎特異的な自己抗体の発見や全身性強皮症の衝撃波を用いた新規治療法の開発を報告しています。

